

神奈川の交通軸となった 自動車専用道路



横浜新道 一部開通 (昭和34年) NEXCO東日本提供



第三京浜 一部開通 (昭和39年) NEXCO東日本提供



東名高速道路 開通 (昭和44年) NEXCO中日本提供



中央自動車道 開通 (昭和43年) NEXCO中日本提供

高度経済成長期に入るとモータリゼーションが進展し、自動車輸送への依存度が高まりました。戦後復興期の道路は主に一般国道が利用されていましたが、鉄道や他の道路と平面交差していることなどから、交通渋滞が深刻化し、効果的な渋滞対策として、自動車専用道路の整備を求める声が高まり、建設が加速化されました。

県内では、初の有料道路として横浜新道が一部開通し、続いて県内初の6車線構造を持つ第三京浜が完成し、その後両路線が接続しました。これにより、東京都心部などへのアクセスを飛躍的に向上させる基盤が出来上がりました。

さらに東名高速道路や中央自動車道が整備され、首都圏と中京圏を結ぶ大動脈として高度経済成長期を支える重要なインフラとなりました。



かながわ「昭和100年」

つながる心、ともに未来へ